

プレカットの荷動き・価格先行き動向調査(25年6月分)

1. 調査実施期間 平成25年 5月20日 ～25年6月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/6月	7月	8月
仕入 動向	国産材製材品	22.2	16.7	11.1
	外材製材品	11.1	-5.6	-5.6
	構造用集成材	43.8	18.8	6.3
消費 動向	国産材製材品	44.4	16.7	16.7
	外材製材品	27.8	5.6	5.6
	構造用集成材	37.5	25.0	6.3
在庫 動向	国産材製材品	12.5	6.3	-6.3
	外材製材品	5.6	-11.1	-11.1
	構造用集成材	22.2	16.7	0.0

プレカット加工用部材の仕入れは、国産材製材、集成材はプラス基調出推移、外材製材は6月のプラスが8月に向けマイナスに。
消費動向は国産材製材、外材製材、集成材ともプラス基調だが8月に向けプラス幅縮小。
在庫動向は、いずれも6月プラスから8月のマイナスあるいはゼロに。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	25/6月	7月	8月
受注	50.0	38.9	33.3
加工	61.1	55.6	22.2
受注残	22.2	16.7	-11.1

受注及び加工ともプラス基調だが、8月に向けプラス幅縮小。
受注残は、6,7月のプラスから8月に向けマイナスに。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・木材利用ポイント事業開始と円安、外材品の影響もあり、国産材利用頻度が高まってきた。今後も続くと思われる。
- ・県産材利用に補助金が出ることもあり、地マツ、杉平角等の仕入れやや増。販売は5月良かったが6月は横ばい。在庫は外材、集成材とも邸別発注のため増減。
- ・米マツ、WW集成材、アカマツ集成材などの価格上昇がすごい。木材利用ポイント事業影響いかん。WW、アカマツ集成材の羽柄材が入手しづらい状況。
- ・製材品は価格上昇傾向。生産工場の忙しさとトラック不足から納期約束されず。製材品消費はおおむね順調に推移。製材品在庫は通常に比べ多めで推移。
- ・為替と市況見ながら、当用買いのつもり。
- ・スギKDの納期かかり、これ以上の増加仕入れ困難。米マツ価格上昇止まらない。集成材は荷不足感なく、価格も強含み横ばい。消費は、一応の在庫有り、要望どおりの樹種で加工消費できている。生産上昇し消費量も増、8月は減少の予想。各アイテムとも在庫率例月どおりで、大きな変化無いが、集成材一部欠品出ている。
- ・仕入れは欧州材第2クォーターの先物の入荷増、単価は一段高。プレカット材の消費は増えるも、一般流通は精彩を欠く。

(受注動向)

- ・安定して仕事ありそう。多少忙しくなるかも。
- ・一般には夏場減少、秋口増加。受注・下降は高水準、受注残は微減傾向。
- ・6月受注・加工は前月比113%、前年同月比132%と良好。受注残は約1.2カ月と多め、8月末には1カ月を切ると見込む。